

Title	前号目次 奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.3 (1916. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160301-0143

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

借地に依るも皆悉く國王法廷の保護を受けたれども、之に反して僕役保有地は然らず、之れ兩者の間の著しく異なる點なりとす。

(七) 賃借地

其後もに至り、或確定したる時日の期限を附し契約に依る借地を生したるか、此期限附借地人 *tenor* は土地其物に對しては何等の物的權利即ち物權なく *No right in rem* 只だ此借地は其貸附人に對して訴訟上の權利即對人權 *Right in personam* を有するのみ、故に其借用地は自由保有地ならざるのみならず、元來此種の借地は土地に關する財産即地産とは思惟せられざりき。自由保有地は、例へは其人一代或は其人及び其子孫の永久に相續し得べきものと云ふか如く、不定の期限附の土地ならざるべからず、或一定の明白なる時日の附帶せる土地なる時、例へは九十九年或は九百九十九年の如き如何に永き期限なるも之を自由保有地とは思惟すること能はざるものとす。
ノルマン征服後は、土地の相續に關しては長

子相續法 *Primogeniture* 一般に行はるゝに至れりと雖も、或地方例へはケント州には男子均分法 *Gavelkind* 行はれ又僕役借地は末子相續法 *Dimitogeniture* に依りて相續せられたることありたり。前述の如く例外として地方的慣習あるの外は、自由保有地は世襲財産となり長子相續法は一般に承認せられ、土地は遺言によりて相續すること能はざるものとなれり。
斯の如く土地法は中世紀の公法の基礎と成り居りたり、例へは國會法は大に其感化を受け、國王は之によりて軍隊及國庫の收入を得、而して就中司法制度とは大なる關係ありて各領主は皆各々自己の借地人に對して裁判管轄權を有し之れか爲めに法廷を開廷せり。而して前述の如き幾多の相異なりたる借地法に依りて保有せられたる土地は、實際上に於ては如何なる状態にあり、如何なる人民之を支配し、如何なる農民か如何なる條件の下にて之か耕作に従事したるかを研究せざる可らざるか、之を了解する爲めには吾人は之より進んで中世紀の莊園を攻究せざる可らず (未完)

前號(第十卷)目次(大正五年二月號)

論 說

米價調節私見(下) 慶應義塾 大學教授 氣賀 勘重

印度の貨幣並に金融制度に關する研究 法學博士 堀江 歸一

戦後の經濟的革新(二) 慶應義塾 大學教授 阿部 秀助

雜 錄

比例代表制度の四典型 村田岩次郎

社會政策より見たる加奈陀官營年金制度 松崎 壽

日英の選舉法改正 山崎 宗直

公開工業研究所に對する私見(上) 山崎 繁樹

地代概論(二) 増井 幸雄

批評と紹介 上田貞次郎著「戰時經濟講話」

編輯主任

堀江 歸一 高城 仙次郎

●一冊定價 金二十二錢 郵税金壹錢五厘

●一ヶ年前金 金二圓四十錢 郵 稅 共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛

●帶環に關する用件は發賣元宛

●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正五年二月廿八日印刷納本 每月一回一日發行

三學會雜誌 第三卷第十號
編輯兼發行所 東京市芝區三丁目三番地慶應義塾内
石田 新太郎
東京市赤坂區新坂町五十九番地
印 刷 所 金子 榮太郎
東京市赤坂區新町五丁目四十四番地
印 刷 所 金子 活版所

發賣元 東京市麴町區有樂町一丁目一番地 新山書店
振替貯金口座東京三四二七番
電話本局三三三三番

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會